キャラクター名
フォールダウン

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー エンジェルハィロゥ	ワークス	FHチルドレンB	カヴァー	FHチルドレン
オプショナル		年齢	中学生くらいに見える	性別	♂
覚醒	死	衝動	憎悪	初期侵食率	39 %
出自	安定した家庭	経験	悲恋	邂逅	欲望：復讐

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2		0			2
感覚	3	1	2			6
精神	2		0			2
社会	1		0			1

HP	26
行動値	14
(非装備時)	14
戦闘移動	19
全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報： FH	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ナイフ	射撃	6r	0	2		
龍舞<ダンスウィズドラゴン>	射撃	9r	0	2+10		侵蝕8。攻撃12。ダメージで憎悪付与。
龍舞<ダンスウィズドラゴン>@100	射撃	10r	0	2+12		侵蝕8。攻撃14。ダメージで憎悪付与。
						暴走中なら攻撃力↑+6、9

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ナイフ	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
復讐者<アヴェンジャー>	P	N		
タイタス)自分を殺した親友	P 執着	N 憎悪		
キャプテン・ジャンジャック	P 執着	N 憎悪		
ヘイチョー	P 尽力	N 無関心		
ヘル	P 好奇心	N 無関心		
ストレイザー	P 好奇心	N 無関心		
アーティラリー	P 親近感	N 無関心		

最大財産P: 4	残り財産P： 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
紅蓮の憎悪(3)	2	ー	常時	至近	自身	自動	ー	
効果： 暴走中のみ攻撃力+[LV*3]。侵蝕基本+3、レベルアップ無し。								
コンセントレイト：サラマンダー(3)	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	ー	ー	ー	ー	
効果： C値をーLV								
炎の刃(5)	5	2	ﾒｼﾞｬｰ	武器	ー	対決	ー	
効果： 攻撃力+[LV*2]								
天からの眼(3)	3	2	ﾒ/リ	ー	ー	対決	ー	
効果： 組み合わせた判定のダイス+LV個。								
憎悪の炎(1)	1	2	ﾒｼﾞｬｰ	ー	ー	対決	ー	
効果： 憎悪付与。対象は自分。								
レーザーファン(3)	1	3	ﾒｼﾞｬｰ	ー	範囲(選択)	対決	ー	
効果： 範囲(選択)に変更。1シナLV回。								
変貌の果て	★	ー	常時	至近	自身	自動	ー	
効果： すっかり見た目が変わってしまったんだ								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「俺は俺を殺した人を探してる。ずっと、ずーーーっと」
「会えたら……そうだな、俺と同じ目に遭わせたい」

俺／君。あんた。お前。普段はそこそこ落ち着いているように見えるが、ふと唐突に笑い出したり泣き出したりする。
かと思えば笑いながら物を破壊する。
本人曰く、「次はあいつがこうなる番だよ」とのこと。

数年前までは極々普通の一般人として生活していた。
しかしとある日、とある誤解から『親友』と大喧嘩をすることになる。
殺すつもりもなく、ただただ激高して詰め寄っただけだったが、やり取りした場所が悪かったのだ。
高所から落ちたのは自分の方だった。
青空も、親友の顔も、大好きだった相手も視界からあっという間に遠ざかり―――そして終わった。

『普通の人間だった』自分の生活が。

どういうわけか息を吹き返し、気付けば記憶は朧気になり、親友の顔も大好きだった相手の顔も思い出せない。
落ちた衝撃で身体のパーツが吹き飛んでしまったかのように、背も縮まり髪の色も目の色も変わった。
本当に自分は、あの時の自分なのか？
この記憶は本当のモノなのか？
その確証すらも得られないまま、けれど胸の内に燃え上がる憎悪の炎は『アイツを殺せ』と囁く。

ならば、そいつを探して、そして真実を確かめて、そうしてこの感情を終わりにしてみせよう。